

みずほマーケット・トピック(2025 年 9 月 5 日)

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

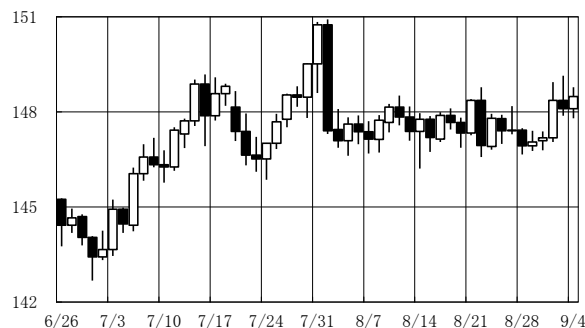
※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

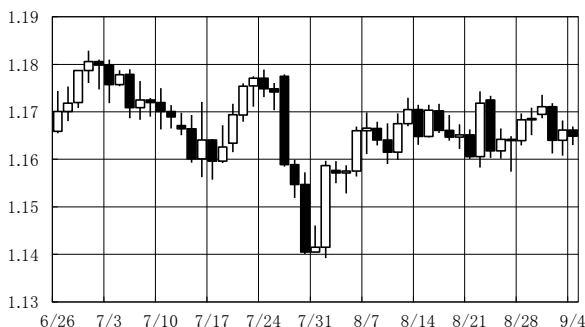
- 今週のドル/円は週半ばにかけ上昇も、その後は上値重く推移した。週初1日、147.13円でオープンしたドル/円は147円を挟んでレンジ推移。海外時間は、米国休場で材料難となる中で、147円台前半を中心にした小動きに終始した。2日、ドル/円は氷見野日銀副総裁による利上げに慎重な発言が材料視され、148円付近へ上昇。海外時間は、米金利上昇や自民党の森山幹事長の辞意表明が材料視され149円手前まで続伸したものの、米8月ISM製造業景気指数の冴えない結果を受けて一時148円を割り込んだ。引けにかけては148円台前半を回復した。3日、ドル/円は本邦政局不安定化懸念が燃る中で149円手前に上昇も、植田日銀総裁と石破首相の会談実施を受けて148円台半ばに水準を切り下げた。海外時間は、米金利上昇を背景に一時週高値となる149.13円を付けるも、米7月JOLT求人件数の弱めな結果が嫌気されて148円付近に反落した。4日、ドル/円はドルの買い戻しを受けて148円台前半でじり高。海外時間は、米8月ISM非製造業景気指数の良好な結果が支えとなり一時148円台後半に続伸も、その後は米金利が低下基調で推移する中で上値重く推移した。本日のドル/円は、引き続き148円台半ばで取引されている。
- 今週のユーロ/ドルは、週半ばにかけ下落し、その後も上値重く推移した。週初1日、1.1690でオープンしたユーロ/ドルはドル売りの流れが支援材料になり、1.17台前半を中心にじり高推移した。2日、ユーロ/ドルは軟調な米経済指標が好感され買い戻される場面もあったが、米金利上昇が重しになる中で1.16台前半に下落した。3日、ユーロ/ドルは米金利続伸が嫌気されて一時週安値となる1.1609まで続落後、米7月JOLT求人件数の軟調な結果が好感されると、米金利低下に連れて1.16台後半に水準を切り上げた。4日、ユーロ/ドルは、独金利低下に加え、米雇用統計公表を前にしたドルの買い戻しの流れを受けて、1.16台半ばでじり安推移した。本日のユーロ/ドルは、引き続き1.16台半ばで取引されている。

		前週末	今 週			
		8/29(Fri)	9/1(Mon)	9/2(Tue)	9/3(Wed)	9/4(Thu)
ドル/円	東京9:00	146.83	147.13	147.09	148.58	147.96
	High	147.42	147.38	148.94	149.13	148.77
	Low	146.78	146.79	147.09	147.88	147.80
	NY 17:00	147.06	147.19	148.38	148.10	148.48
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1681	1.1690	1.1715	1.1633	1.1660
	High	1.1709	1.1737	1.1717	1.1682	1.1669
	Low	1.1651	1.1689	1.1613	1.1609	1.1630
	NY 17:00	1.1682	1.1711	1.1642	1.1661	1.1653
ユーロ/円	東京9:00	171.47	172.10	172.44	172.90	172.58
	High	172.01	172.52	173.35	173.30	173.20
	Low	171.33	172.00	172.39	172.60	172.32
	NY 17:00	171.83	172.41	172.72	172.74	172.97
日経平均株価		42,718.47	42,188.79	42,310.49	41,938.89	42,580.27
TOPIX		3,075.18	3,063.19	3,081.88	3,048.89	3,080.17
NYダウ工業株30種平均		45,544.88	-	45,295.81	45,271.23	45,621.29
NASDAQ		21,455.55	-	21,279.63	21,497.73	21,707.69
日本10年債		1.60%	1.62%	1.60%	1.63%	1.60%
米国10年債		4.23%	-	4.26%	4.22%	4.16%
原油価格(WTI)		64.01	-	65.59	63.97	63.48
金(NY)		3,516.10	-	3,592.20	3,635.50	3,606.70

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、11日(木)に8月消費者物価指数(CPI)が公表予定となっている。7月は+2.7%(前年比、以下同様)と6月から横ばい推移となり、市場予想の+2.8%を下回った。一方、食料品とエネルギー価格を除いたコアは+3.1%と市場予想の+3.0%および6月の+2.9%を上回った。内訳を確認すると、非コア項目では、食品・エネルギーの双方がヘッドラインの押し下げに寄与。コア項目では、コア財価格が+1.17%と3か月連続で伸び幅が拡大した一方、コアサービス価格は+3.64%と5か月連続で+3.6%程度の伸び率が続く。ただし、FRBが重視する居住費除くコアサービス価格は、ブルームバーグの試算によれば+3.21%と3か月連続で伸びが加速している。なお、8月の結果に関しブルームバーグの事前予想では、総合ベースで+2.9%、コアベースで+3.1%と見込んでいる。
- 欧州では、11日(木)にECB政策理事会が開催される。前回7月会合は、およそ1年ぶりに利下げを見送った。8月28日に公表された議事要旨を確認すると、インフレのリスクが概ね上下にバランスしていることや、域内経済の底堅さが6月時点のベースライン見通しに沿ったものであることなどが強調されていた。米・EU通商交渉もECBの想定内の範囲でまとまっており、履行に関しては不確実性も伴うものの、ECBの政策パスに大きな影響は与えないだろう。既に6月会合から利下げ路線の停止が示唆されていた中で、今回9月会合でも連続での据え置きが既定路線となっている。なお、9月会合ではスタッフ経済見通しが更新される。既報の通り、6月見通しでは米通商政策の強弱によって複数のシナリオが併記されていたが、9月会合でどのようなかたちになるのか確認したい。確かに米・EU通商交渉はまとまったが、例えば米中関税賦課合戦はあくまで一時停止をしているに過ぎず、今後の決め打ちは困難だ。

	本 邦	海 外
9月5日(金)	・7月毎月勤労統計 ・7月家計支出 ・7月景気動向指数(速報)	・独7月製造業受注 ・ユーロ圏4～6月期GDP(確報) ・米8月雇用統計
8日(月)	・4～6月期GDP(改定値) ・7月国際収支 ・8月景気ウォッチャー調査	・独7月鉱工業生産 ・独7月貿易収支 ・ユーロ圏9月センチックス投資家信頼感 ・仏バイエル首相信任投票実施
9日(火)	・8月工作機械受注(速報)	・米8月中小企業楽観指数 ・米雇用統計 年次ベンチマーク改定(速報)
10日(水)	—————	・米8月生産者物価指数 ・米7月卸売在庫(確報)
11日(木)	・8月国内企業物価指数	・独7月経常収支 ・ユーロ圏ECB政策理事会 ・米8月消費者物価指数
12日(金)	・7月鉱工業生産(確報) ・7月設備稼働率	・独8月消費者物価指数(確報) ・米9月ミシガン大学消費者マインド(速報)

【当面の主要行事日程(2025年9月～)】

ECB政策理事会(9月11日、10月30日、12月18日)

FOMC(9月16～17日、10月28～29日、12月9～10日)

日銀金融政策決定会合(9月18～19日、10月29～30日、12月18～19日)

国際為替部

チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)

daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2025年9月4日	遂に「利上げ再開」の兆しも出始めたECB
2025年9月3日	対米投資5500億ドル合意の現在地
2025年8月28日	週末版
2025年8月27日	円金利上昇の背景はどこに～円安終わらず～
2025年8月25日	ジャクソンホール経済シンポジウムの読み方
2025年8月22日	週末版(「ユーロ圏の「人手不足」はどうなったのか?～「需要不足」への問題意識は高止まり～)
2025年8月20日	4～6月期、「米国離れ」の真相～TICデータ～
2025年8月19日	上半期の円の需給環境について～改善傾向～
2025年8月18日	欧州の外交成果が垣間見えた米露首脳会談
2025年8月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年7月分)
	週末版(「家計部門の投資意欲」に腰折れ懸念～「海外→国内」のローテーションはあるか?～)
2025年8月14日	ニクソン・トランプ比較論～争点は「覇権国の管理コスト」～
2025年8月13日	ニクソン・トランプ比較論～恐れるべき結末～
2025年8月12日	過剰反応すべきではないFRB人事の影響力
2025年8月8日	週末版
2025年8月5日	米EU交渉の評価～妥協か、英断か～
2025年8月4日	遂に現れた関税の影響～雇用統計の読み方～
2025年8月1日	週末版(日銀会合を終えて～霧は完全に晴れずも10月利上げが視野に～)
2025年7月31日	FOMCを終えて～年末以降、非常に厄介な状況に～
2025年7月29日	「米国離れ」の検証～5月は過去最大の資本流入～
2025年7月28日	対米投資利益の解釈～「90%取られる」の意味～
2025年7月25日	週末版(ECB政策理事会を終えて～6月から状況変わらず～)
2025年7月23日	日米関税交渉の合意について～日銀への影響あり～
2025年7月22日	参院選を終えて～現状と展望の整理～
2025年7月18日	週末版(日銀レビュー～「前門の国内政治、後門の米国政治」～)
2025年7月16日	日本版トラスショック再考～脆弱性は否めず～
2025年7月15日	日本版トラスショック再考～現実味を考える～
2025年7月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年6月分)
	日本政治の現状と展望～日本売りの材料になる政治～
2025年7月11日	週末版
2025年7月10日	追い詰められているのは米国も一緒～TAGOの前提～
2025年7月9日	関税の緩衝材となる円安～日銀の判断は～
2025年7月8日	膠着する家計の投資意欲とその今後
2025年7月7日	物価高対策を巡る不可思議～王道は利上げ～
2025年7月4日	週末版
2025年7月3日	今、考えるユーロ/ドル相場の高値目途
2025年7月2日	インフレ適応が続く家計、諦観強まる若年世代
2025年7月1日	25年上期レビュー～「欧州の強さ」と「円の弱さ」～
2025年6月27日	週末版
2025年6月26日	NATO首脳会議～動き出した欧州の戦略的自律～
2025年6月25日	「米国離れ」は本当なのか～4月に起きていたこと～
2025年6月24日	衰えないスイスフラン～欧州資産へのローテーション～
2025年6月23日	目立ってきた日本の高インフレと中東リスクへの不安
2025年6月20日	週末版(FOMCを終えて～ドル/円相場への含意～)
2025年6月18日	貰かれなかった「べき」論～優しさの代償は?～
2025年6月16日	中東事変とドル/円相場への影響～円売り優勢～
2025年6月13日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年5月分)
	週末版(変わるドル凋落相場の背景～米国主導ではなく他国主導に～)
2025年6月12日	日銀会合レビュー～「もう関与しない」を示す時～
2025年6月11日	円の基礎的需給環境について～暴落後の挙動～
2025年6月10日	新しい対内直接投資目標の読み方～「骨太の方針」～
2025年6月9日	為替政策報告書を受けて～年金運用への注文?～
2025年6月6日	週末版(ECB政策理事会を終えて～利下げ局面の終わり?～)
2025年6月4日	ユーロ圏5月消費者物価指数(HICP)の読み方
2025年6月3日	ECB政策理事会レビュー～利下げは当然視できる?～
2025年6月2日	欧州再軍備と欧州版ハミルトン・モーメント
2025年5月29日	IEEPA違法判決はゲームチェンジャーになるか?
2025年5月28日	34年ぶりの首位陥落～24年末対外純資産について～
2025年5月26日	懸念通りの米EU交渉～日本との違い～
2025年5月23日	週末版(ユーロ相場の現状について～堅調に潜むリスク～)
2025年5月22日	円金利上昇と為替相場についての所感
2025年5月21日	赤澤ベッセント会談3.0～争点化する自動車～
2025年5月19日	米国債格下げの影響～急性的ではなく慢性的～
2025年5月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年4月分)
	週末版
2025年5月15日	懲りないドル安ナラティブ～3度目の光景～
2025年5月14日	円の基礎的需給環境について～25年1～3月期～
2025年5月13日	経産省「デジタル経済レポート」を受けて～その②～
2025年5月12日	経産省「デジタル経済レポート」を受けて～その①～
2025年5月9日	週末版(米英合意を受けて～むしろ心配になる米EU交渉～)
2025年5月8日	FOMCを終えて～デュアルマンドートの拮抗～
2025年5月7日	逆「アジア通貨危機」観測の考え方
2025年5月2日	週末版(日銀会合を終えて～「何もわからず、何も決められず」の状況～)
2025年4月28日	EUの対米戦略について～「デジタル赤字への課税」も～
2025年4月25日	週末版
2025年4月24日	不確実性極まるIMF報告～WEOとGFSR～
2025年4月23日	最強通貨の地位が続くスイスフランからの教訓
2025年4月22日	加藤・ベッセント会談レビュー～為替は争点なのか?
2025年4月18日	週末版(ECB政策理事会を終えて～6月スタッフ見通しの重要性を強調～)
2025年4月17日	マールアラウゴ合意の読み方～40年前の再現は不可能～
2025年4月15日	日本の構造変化vs. 国際金融体制の再編
2025年4月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年3月分)
	日米通商交渉レビュー～論点の検討～
2025年4月11日	週末版(リスクシナリオの高まり～不穏なベッセント発言～)
2025年4月9日	トランプ大統領はJカーブ効果に耐えられるのか
2025年4月8日	残された望みは「緊急協調利下げ」か?
2025年4月7日	インバウンド需要はブーカウトするか?
2025年4月4日	週末版(正論を掻き消す時代の振り子～デタラメ過ぎる関税根拠と為替政策報告書～)
2025年4月3日	厳しい対米貿易の展望～輸出は減り、輸入は増える～
2025年4月2日	トランプ時代の「為替政策報告書」の意味を考える
2025年4月1日	1～3月期の為替市場外観～割を食うユーロ圏～
2025年3月28日	週末版(世界に広がるスタグフレーションシナリオ～25%自動車関税の行方～)